

碁会所の思い出

大和田囲碁同好会 池田正三

およそ15年前、江東区東陽町に住んでいたことがあり、その頃に西葛西の碁会所によく遊びに行った。駅から歩いて数分のビルの2階にあったが、初めての碁会所というのは何故か入りづらい。一呼吸置いてドアを開けたら、確か10数人いたような気がする、ドアの前に立っていると席亭らしい人が声をかけてくれて、「ここ初めてなんですが」と言ったら、「どのくらいの棋力ですか」と聞かれ、本当は二段くらいと思っていたが、「初段くらいです」と答え、席亭が「それでは私とやってみましょうか」となり、1局打つことになった。

確か4子くらい置いた気がするが、その結果、取り敢えず初段でスタートすることになった。ここでは、年に1,2回大会があり、優勝すると賞品がもらえ、一度ハムの詰め合わせをもらった時は家族に喜ばれたものだ。その大会の時は、席亭の奥さんも手伝いに来られ、美人の奥さんで皆の中ではマドンナ的な人だったようだ。特に思い出があるのは、親しい仲間4、5人で夕方、近くの居酒屋で飲みながら、ペア碁（男性同士）をよくやった。局後、打った手を批評しあい、酒が入っているせいか酷評されることもあったが、なかなか面白かった。

一度は夢中になり終電を逃し、歩いて自宅まで帰ったこともあった。何とか五段近くまで行ったような気がするが、その頃に碁会所がなくなり、碁のメンバーとも別れることになった。最後の日には、お別れ会で碁会所の碁盤を1万円で買い、その碁盤には温厚な席亭や碁の仲間との思い出が詰まっている。

(2021年9月25日)

